

第1次

第1時

本時の
目標

実際におもちゃを作ってみることを通して、作り方の説明を読んだり書いたりすることに興味をもつことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 これまでのおもちゃ作りの経験を想起する。 2 教材文の範読を聞き、実際に紙コップ花火を作る。 3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	皆さんはおもちゃ作りをしたことがありますか。どのようなおもちゃを作りましたか。 では、この写真（P41）のような手作りのおもちゃを作ったことはありませんか。紙コップ花火といいますが、先生も作ってみました。 ○作った紙コップ花火を実際に見せて、興味をもたせる。 このおもちゃについての説明が、この後に書いてあります。先生が読みますので、実際に作って遊んでみましょう。 ○教材文を読みながら試行錯誤する経験がこの学習の原動力となる。下のような児童のつぶやきを記録しておくといよい。 楽しく作って遊ぶことができましたね。作っているときに、分かりやすかったところや、何度も繰り返し読んだところがあったと思います。次の時間は、どんな言葉や文に注目して作ったり遊んだりしたか、聞いてみたいと思います。	○「どういふふうに動くのですか。」 ○「どうやって遊ぶのですか。」 ○「作ってみたいです。」 ○「おもちゃを作るの！ 楽しみです。」 ○「折り紙の折り方の説明書に似ています。」 ○「まず」何をするのだろう。 ○「よこむき」ってこうだね。写真を見ると分かるよ。 ○「一センチメートル」だって。測ってみよう。 ○「気をつけましょう。」って、アドバイスを書いてある。 ○他にも「〜しましょう。」って書いてあるよ。 ○「それを」って、どれだろう。 ○「作り方」だけじゃなくて「楽しみ方」も書いてあっていいね。

第1次

第2時

本時の
目標

おもちゃ作りを振り返り、読んだことをいかして書くという学習課題や学習計画を立て、学習の見通しをもつことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 前時の学習を振り返る。 2 おもちゃの作り方の説明を書くことを確認する。 3 P41を読み、学習課題を設定し、学習計画を立てる。	紙コップ花火を作って遊んでみて、どうでしたか。 ○それぞれの気づきを板書するようにする。特に、説明のしかたに着目している児童の意見を取り上げ、説明文を読む学習につなげていく。 他にもおもちゃを作って遊んでみたいですね。皆さんも、作り方の説明を書いて、友達どうしで読み合ってみるというのはどうでしょう。 ○誰に読んでもらうかを確認するとよい。 いきなり書くのは難しそうですね。そこで、この「紙コップ花火の作り方」を読んで、それをいかして書くというのはどうでしょう。 《学習課題》 「せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書く」 次の時間からは、「紙コップ花火の作り方」を読んで、説明の工夫を考えていきましょう。	◎写真があつたから、分かりやすかった。 ◎○○さんが手順を教えてくださいましたから作れた。 ◎「まず」「つぎに」などの言葉に気をつけたんだよ。 ◎最後の花火の部分と紙コップをくつつけるところが難しかったけれど、○○さんがコツを教えてくださいました。 ◎他にもおもちゃを作ってみたいです。 ◎おもちゃの作り方の説明書を書いてみたいです。 ◎牛乳パックの車の作り方を説明したいです。 ◎ペットボトルロケットの作り方を書きたいです。 ◎クラスの友達に読んでももらいたいです。 ◎でも難しそうだな。どうやって書けばよいのだろう。 ◎いきなりは書けそうにないけれど、お手本があつたら書けるかもしれない。 ◎みんな、説明のしかたについて考えたら、書き方のポイントが分かって、書けるかもしれない。 ◎おもしろそう。早く書いてみたいな。 ◎何のおもちゃの作り方を書こうかな。

第2次

第3時

本時の
目標

「紙コップ花火の作り方」を読んで、まとまりや順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 説明文の構成を確認める。 3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	おもちゃの作り方を書くために、まずは、「紙コップ花火の作り方」を読んで、説明の工夫を考えようということにしましたね。 ○ P 46 「といをもとこう」「もくひょう」を読んで、学習の見通しを改めて確認するとよい。 では、まずは、文章の全体を読んでみましょう。 この文章はどんなまとまりに分かれていますか。 ○ 〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈楽しみ方〉に分かれていること、それらは「準備・制作・使用」の時系列に沿って書かれていることにも気づかせたい。 今日は、「紙コップ花火の作り方」がどのようなまとまりで書かれているかを確かめました。 次回は、「紙コップ花火の作り方」を読むときに気をつけたい言葉や文を探しましょう。	〔C〕初めに何を作るかが書かれています。完成したおもちゃの写真も載っています。 〔C〕〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈楽しみ方〉の順で書いてあります。 〔C〕〈ざいりょうとどうぐ〉には、用意するものやその大きさ、数が書かれています。 〔C〕〈作り方〉には、おもちゃの作り方が順番に書かれています。 〔C〕〈楽しみ方〉には、おもちゃを使ってどのように遊ぶかが書かれています。

第2次

第4時

本時の
目標

〈作り方〉を読んで、文章中の重要な語や文を読み取ることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 紙コップ花火を作るときに注目した言葉や文について話し合う。 3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	紙コップ花火を作るときに、どんな言葉や文に気を付けたか、話し合いました。 紙コップ花火を作るときに、どんな言葉や文に注目したか、発表してください。 ○第1時の紙コップ花火作りのときに、本文に線を引いたり書き込みをしたりした児童がいた場合には、ここで取り上げて価値づけするようにする。 また、紙コップ花火を作るときに記録した児童のつぶやきを紹介し、学級全体の学びを広げていくこともよい。 〈作り方〉の説明にある大事な言葉や文に気づくことができでしたね。説明を書くときに、いかしていきましよう。 話し合いでは、写真があると分かりやすいという意見がありました。次回は、写真と文章の関係を考えながら読みましよう。	㊦「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」という順序を表す言葉に線を引きました。 ㊦「○○のぶぶん」という言葉に注目しました。この部分を作っているかが分かるのでよいと思います。 ㊦「一センチメートル」と書いてあったので、正しく測って作りました。 ㊦「よこむき」「手前」「太いほう」など、間違えてはいけない言葉に注目しました。 ㊦「気をつけましよう。」と注意が書いてある文に線を引きました。 ㊦写真があると、どこをどうしたらよいかがとても分かりやすいです。

第2次

第5時

本時の
目標

〈作り方〉を読んで、それぞれの写真が文章のどの部分を指しているかを
読み取ることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 写真と文章の関係について話し合う。 3 写真の目的を考える。 4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	写真は文章のどの部分と合わせて読むとよいか、考えましょう。 〈作り方〉には、写真がありました。写真は何枚ありましたか。 それぞれの写真は、文章のどの部分と合わせて読むとよいでしょうか。 写真は、何のために必要なのでしょうか。考えを書きましょう。 〈作り方〉を読んで、写真が文章のどの部分を指しているのが分かりましたね。写真のよさも分かりました。次回は、使ってみたい説明の工夫について考えていきましょう。	児童の反応・板書例 ⑧ 八枚です。①～⑧まで、番号が書いてありました。 ① ①は「紙をよこむきに切り分けましょう。」です。 ② ②は「半分に切ったくりかえしておきましょう。」です。 ③ ③は「それを、のりでつけて、」です。 ④ ④は「しゃしん④のような」と書いてあります。 ⑤ ⑤は「わりばしのつけましょう。」です。 ⑥ ⑥は「紙コップをく空けます。」の一文です。 ⑦ ⑦は「セロハンテープでくとめます。」です。 ⑧ ⑧は〈楽しみ方〉の部分と合わせて読みます。 写真があると、どのくらいの幅か、どこどこをくつつけるか、どこから穴を空けるかなどが、分かりやすくなります。 写真があると、言葉で説明しきれないことも、分かりやすく伝えることができます。

第2次

第6時

本時の
目標

分かりやすく説明するための筆者の工夫を見つけ、友達と共有し、使ってみたい説明の工夫を考えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 説明の工夫をグループで共有し、出てきた意見をまとめて、全体で発表する。 3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	「紙コップ花火の作り方」を読んで、大事な言葉や文、写真に注目して読みながら、説明の工夫を探してみました。 今日は、見つけた説明の工夫を紹介し合いながら、自分が使ってみたい工夫を考えよう。 グループに分かれて、見つけた説明の工夫を紹介し合いましょう。 ○グループ活動をした後には、全体で共有する時間を設けて、確認するようにする。 各グループで、どのような意見が出ましたか。発表してください。 使ってみたい説明の工夫を考えることができましたか。自分で見つけた説明の工夫には◎、友達が見つけた説明の工夫には○を付け、説明する文を書くときにかきつけていきましょう。 次回からは、おもちゃの作り方を説明する文章を書いていきましょう。	◎「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」などの言葉があると、順序が分かりやすいです。 ◎言葉だけでは分かりにくいところは、写真も使って説明すれば、分かりやすいです。 ◎どれくらいのが長さなのか、どこに何をするのかを細かく書いたほうが分かりやすいです。 ◎初めに何を作るのかを説明して、その後、材料と道具、作り方、遊び方を順番に、まとまりごとに書く、分かりやすいです。

第3次

第7時

本時の
目標

これまでに作ったおもちゃを想起しながら、作り方を説明するおもちゃを決めることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 持ってきたおもちゃで遊んだり、それを紹介したりする。 3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	今日からおもちゃの作り方を説明する文章を書いていきましょう。まず、学習の進め方を確かめましょう。 ○P48「といをもとこう」「もくひょう」を読んで、学習の見通しをもたせる。 今日は、説明するおもちゃを決めましょう。 作り方を説明したいおもちゃを持ってきましたね。ペアでそれぞれのおもちゃを紹介しましょう。 説明するおもちゃは決まりましたか。友達が楽しく作れるように、分かりやすく伝わる文章を書きたいですね。今回は、材料や道具を確かめていきましょう。	○糸電話を持ってきたよ。紙コップの底に糸を通すのが大変だったんだ。 ○とことこ車を持ってきたよ。ここがくるくる回って、とことこって走るんだよ。 ○びゅんびゅんごまを持ってきたよ。こうやって回すよ。 ○びゅんびゅんごまを回すのは初めてだ。やってみるね。 ○うん、こうやってやるといいよ。 ○難しいけど回せたよ。おもしろい。どうやって作るの？

第3次

第8時

本時の
目標

説明するおもちゃに必要な材料や道具を書き出すことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 選択したおもちゃを作るために必要な材料と道具を書き出す。 3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	説明するおもちゃは決まりましたね。今日は、そのおもちゃを作るために必要な材料や道具を考えて書いていきましょう。 考えた材料や道具を書き出してみよう。 ○できるだけ準備しやすい材料や道具にするように声かけをする。また、教科書に例示されている「けん玉」の材料である「まっぼっくり」など、季節が限定されるものもあるので、留意したい。	㊦糸電話に必要なものは、「紙コップ」と「糸」だね。紙コップの底には、何で穴を空けたらいいかな。 ㊦きりがいいと思うよ。でも、危ないから、先生にしてみようというね。 ㊦すいすい電車に必要な材料は「ペットボトルのキャップ」「工作紙」「ストロー」「竹ひご」だよ。電車に模様を描くために、カラーペンもあるといいな。 ㊦松ぼっくりけん玉には、松ぼっくりが必要だね。公園に落ちていたから、拾ってくるというね。どこの公園にあるかも書いてあげると、準備しやすいね。

第3次

第9時

本時の
目標

文章全体の組み立てと、説明する順序を考えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 「紙コップ花火の作り方」「けん玉の作り方」を音読し、文章全体の組み立てを捉える。 3 自分が説明する文章の組み立てを考える。 4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	文章全体の組み立てを考えましょう。何を手がかりに考えていけばよいでしょうか。 二つの文章を読んで、どんな組み立てで書かれているかを考えてみましょう。 ○二つの文章を読み比べ、同じような構成で記述されていることに気づかせる。 これから書く説明はどのような組み立てで書けばよいか、考えて書いてみましょう。 ○「前書き」、「ざいりようとうぐ」、「作り方」、「楽しみ方」または「あそび方」の四つのまとまりで構成するように促す。 どのような組み立てで書くか確認できましたね。次回は、「作り方」の説明の順序を考えていきましょう。	児童の反応・板書例 ○「紙コップ花火の作り方」で考えた説明の工夫です。 ○P 50の「けん玉の作り方」も参考にするとよいと思います。 ○「紙コップ花火の作り方」も「けん玉の作り方」も、何を作るか、「ざいりようとうぐ」「作り方」が書いてあります。 ○最後の「楽しみ方」と「あそび方」は、名前は違いますが、どちらも、作った人が楽しく遊べるように書かれています。 ○「前書き」、「ざいりようとうぐ」、「作り方」、「楽しみ方」または「あそび方」の四つのまとまりで書くことよいと思います。 ○「作り方」を書くのが難しそうです。 ○「作り方」には写真を付けて、分かりやすくしたいです。

第3次

第10時

本時の
目標

《作り方》の説明の順序を考えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 《作り方》の説明の順序を考える。 3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	《作り方》は、どのような順序で説明を書くときよいと考えていきましょう。 「紙コップ花火の作り方」の《作り方》は、いくつに分かれていましたか。 それぞれのまとまりに何を書くか、どのような順序で説明を書くか、短い文で書いてみましょう。 ○いくつかの段落で書くかを考える段階なので、まずは短く簡単な文で書くようにさせる。 ○構成表を付したワークシートを用意する（本案P15参照）。表に直接書き込んでもよいが、付箋紙を用いると、順序を入れ替えたり、内容を書き換えたりすることが簡単に行えて便利である。 ○ペアでワークシートを見合う時間を取る。 今日は、どのように説明を書いていくかを考えました。次回は、まとまりごとに文章を書いていきましょう。	【C】「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」「これで」の五つに分けています。 【C】五つに分けて書くことにしよう。まずは、この部分になる紙の準備について書こう。 【C】「つぎに」では、この部分のことを書こう。 【C】ここここをつなぎ合わせることを書こう。 【C】写真も使いたい。まとまりごとに、一枚ずつ付けよう。 【C】○○さん、このことよりも、こつちを先に書いたほうがいいんじゃないかな。 【C】そうだね。ありがとう。そうしてみるよ。 【C】これで伝わるかな。○○さん、どう思う？

第3次

第11時

本時の
目標

作り方が分かるように、順序を意識して説明を書くことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 前書きと〈ざいりょうとどうぐ〉を書く。 3 〈作り方〉を書く。 4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	今日は、前回考えた説明の順序に沿って、「おもちゃの作り方」を書きましょう。 皆さんはどんな組み立てにしましたか。ワークシートを振り返ってみましょう。 まず、何を作るかと、〈ざいりょうとどうぐ〉を書きましょう。材料と道具は既に書き出しているの書きやすいと思います。材料、道具の順序で書きましょう。 〈作り方〉を書いてみましょう。説明のしかたを、どのように工夫するとよいですか。 ○ 順序が分かる言葉を板書し、順序を意識づける。段落が多い場合は、「一ばん目に」「二ばん目に」などの示し方があることを知らせる。 難しかったところがありますか。 次回も〈作り方〉の続きを書いていきましょう。〈楽しみ方〉や〈あそび方〉も書けるといいですね。	◎ 何を作るかを書いて、〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈楽しみ方〉の順に書きます。 ◎ 「まず」「つぎに」などの順序が分かる言葉を使います。 ◎ 言葉だけでは分かりにくいところは、写真や絵を使って説明します。 ◎ どれくらいの大きさなのか、どこのことなのかを具体的に詳しく書きます。 ◎ 〈作り方〉の中をどう分けるのが難しかった。 ◎ 順序を考えるのが難しかった。 ● こうした振り返りを指導にいかしていくようにする。

第3次

第12時

本時の
目標

作り方が分かるように、順序を意識して説明を書くことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 〈作り方〉の続きを書く。 3 〈楽しみ方〉や〈あそび方〉を書く。 4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	前回は〈作り方〉の途中まで考えましたね。文章を書いてみて、どうでしたか。 今日は、〈作り方〉と〈楽しみ方〉〈あそび方〉まで書けるとよいですね。 説明に使用したい写真を見ながら文章を書いてもいいですね。 〈作り方〉が書けた人は、友達と交換して読んでみましょう。 ○友達の文章を読んで気づいたことは、自分の文章にいかすように促す。 最後に、〈楽しみ方〉や〈あそび方〉を書きましょう。 選んだおもちゃの作り方を分かりやすく書くことはできましたか。次回は、書いた文章を読み合っ、おもちゃを作ることができそうか、考えてみましょう。	〔C〕「まず」「つぎに」を使うと、順序が分かりやすいし、書きやすかったです。 〔C〕作る途中の写真を決めて、それを詳しく説明しようと思ったら、文章が書けました。 〔C〕形を説明するのが難しいときは、「しやしん④のよう」などと書く分かりやすいです。 〔C〕写真を見ながら、向きや場所を確認して、詳しく書いてみようと思います。 〔C〕「くしましょう。」という言葉がいいね。 〔C〕こは、「紙コップ花火の作り方」の書き方をまねしているんだね。とても分かりやすいよ。 〔C〕私もそういう書き方をしてみようかな。 〔C〕〈楽しみ方〉のところにも写真が一枚あるといいな。 《支援》 〈楽しみ方〉や〈あそび方〉は短時間で短くまとめさせる。あくまでも〈作り方〉を書くことが中心であるため、時間配分を教師のほうで調整する。

第3次

第13時

本時の
目標

書いた文章を読み合い、自分の文章のよさに気づいたり、よりよくするた
めの書き方を見つけたたりすることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 ペアで文章を読み合う。 3 説明が分かりにくかった部分を書き直す。 4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	書いた説明の文章をペアで読み合ひましょう。 ペアで文章を読み合って、見直しをしましょう。 ○活動を始める前に、相手の文章を読むときの留意点を確認するようにする。例えば、ほめてあげたいところやアドバイスしたいところを意識すること、などである。 ○ペアで読み合うことで、説明が不十分なところを実感できるようにする。 書いた文章を自分で読み直したり、友達に読んでもらってアドバイスをもらったりすると、文章をよりよくすることができまね。分かりにくかったところを書き直してみよう。 分かりやすい文に書き直すことはできましたか。次回、書き直した文章を友達と読み合ってみよう。	【C】順序を表す言葉を使って、部品ごとに作り方を書いていたから、とても分かりやすかったよ。 【C】ありがとう。そこは工夫して書いてから、気づいてくれて、とてもうれしいよ。 【C】この写真も分かりやすかったよ。できれば、終わりのほうにも写真があると、もっと分かりやすいかもしれないね。 【C】そうだね。写真を入れてみることにするよ。 【C】長さを書いていないところがあつたから、書きます。 【C】どこから測るのが分からなかったから、「まん中から」と書きます。 【C】絵と文章が少し合っていなかったたので、書き直します。

第3次

第14時

本時の
目標

友達と説明を読み合い、説明を工夫していると感じたところを友達に伝えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 本時のめあてを確認する。 2 友達と文章を読み合う。 3 自分の書いた説明のよいところを確認する。 4 学習を振り返る。	今日は、書いた文章を友達と交換して読み合い、友達の説明の工夫を探しましょう。 友達が書いた説明を読み、「工夫しているな。」というところを見つけたら、そのことを友達に伝えましょう。 自分の書いた文章のよいところをノートにまとめましょう。友達から聞いたことや自分で考えたことを書き出してみましょう。 ○自分の書いた説明のよいところについて、他者評価を踏まえて自己評価し、「できるようになった。」という実感をもたせたい。 P 50・51「たいせつ」「いかそう」を読みましょう。今回は、おもちゃの作り方を分かりやすく説明するために、説明の工夫を考えてきました。学んだことをこれからの生活や学習にいかしていきましょう。	◎順序が分かる言葉を使っているから分かりやすいです。 ◎この絵は、この部分の説明によく合っています。 ◎どこ、どのくらいということが詳しく書いてあって、作りやすそうです。 ◎友達に話すときにも、「はじめに」「つぎに」などの順序を表す言葉を使うと分かりやすいです。 ◎文章を読むときには、絵や写真とつなげて読んでみようと思います。

資料

ワークシート「組み立てメモ」(第3次・第10時)

おもちゃの名前

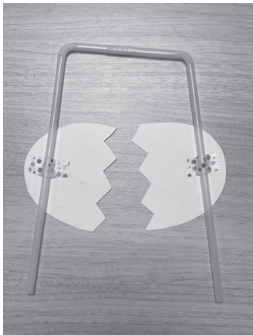
たまごからにわとり

楽しみ方	作り方				ざいりょう とどうぐ
りょうがわのストローをもって、うちがわにむかって、ねじるように回します。そうすると、たまごがわれて、にわとりがおりてきます。	うをかいてもいいですね。	これで、たまごからにわとりのできあがりです。たまごやにわとりにもよしやしん②のようにつけます。	さいごに、にわたりの絵をさかさまにして、もう一ど、うらがえしにして、しやしん②のようにつけます。	それから、にわとりを作ります。画用紙に、にわたりの絵をかきます。	まず、土台を作ります。二本のうち一本のストローをまげ、みじかいほうの口に、五ミリメートルほどの切りこみを入れます。もう一本のストローもまげ、そこにもう一本をさしこみ、セロハンテープでつなぎます。
					つぎに、たまごを作ります。画用紙に、たまごをかきます。まん中をぎざぎざに切ります。それぞれをしやしん①のようにつなぎます。
					・まがるストロー　・色画用紙　・セロハンテープ ・フェルトペン　・はさみ　・おり紙、シール（かざり）

しやしん②



しやしん①



■ 単元構成の考え方とポイント

本単元では、学びをつなげるという意識をもって、学習を進めさせるようにしたい。具体的には、おもちゃの作り方を説明するという目的意識をもって文章を読み、学んだ説明の工夫をいかすという意識をもって文章を書くという展開が想定される。こうした展開の中で、学びをつなげ、次にいかすという学び方のよさを実感することができれば、児童は、今後も、単元どうしや教科間の学びをつなげ、主体的に学びを広げ深めていくことであろう。

第一次では、扉ページを手がかりに、学習課題や学習計画を立てる。扉ページには、紙コップ花火のおもちゃの写真が掲載されている。単元名や教材文、リード文を読み、「紙コップ花火の作り方」を軸に学びをつなげていくという本単元の展開を確認する。

第二次では、説明のしかたに気をつけながら、「紙コップ花火の作り方」を読む。なんとなく文章を読むのではなく、説明の工夫という視点をもって読むことで、「まず」「つぎに」などの順序を表す言葉や、より詳しく具体的に説明するための言葉や文、絵や写真の効果などに児童自ら気づくことであろう。そうした気づきを取り上げ、文章中の重要な語や文の意味や働きなどについて考えさせるようにする。

第三次では、読んで学んだことをいかして書く。読むことで学んだ説明の工夫を効果的に使うことができているかという観点から支援したり、子どもの自己評価を促したりする。そうすることで、学びをつなげるという意識を明確にして、学習を進めることができるであろう。

■ 授業を進めるうえでのポイント

第一次では、児童が「やってみたい!」「学びたい!」という思いをもてるように、学習材や教材文との出会いを工夫する必要がある。本単元では、紙コップ花火を見せた後、教材文を読みながら、実際に作る活動を行うこととした。文章に向き合って試行錯誤する過程におけるさまざまな気づきを記録しておき、第二次や第三次の学習にいかすように。

第二次では、まず、紙コップ花火を作る際に、教材文のどの言葉や文に気をつけて読んだかを共有する。その後、文章を書くということを意識させながら、教材文の説明の工夫を読み取るという俯瞰的な読みに挑戦させるようにする。その際、グループやペアの活動を取り入れて、多様な見方や考え方と出会わせ、学びを広げさせるようにしたい。

第三次では、学んだ説明のしかたをいかして、文章を書く活動を行う。その際、ペアでアドバイスし合う活動を取り入れ、読む相手を意識しながら対話的に進めるようにするとよい。また、端末を活用して写真を効果的に取り入れながら書き進められるように環境を整えることも重要である。

■ 次への課題・展望

本単元では、学びをつなげるという意識を醸成することを目指して、言語活動を設定している。本単元における学びを次の単元や他の学習、生活につなげていけるように、単元終了後の具体的な場面を想像させて、学びのつながりを価値づけしていくようにする。